

2014



平成26年12月 発行

No. 95

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX 018(823)2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

支部設立55周年記念

支部設立五十五周年記念祝賀会開催

副支部長 鈴木 裕子

秋田支部は昭和三十四年六月に設立、本年度で五十五周年を迎え、その記念祝賀会が十一月十五日、秋田ビューホテルで午後一時から開催。会場には、支部の歴史となる設立当時の会山行、周年記念事業、分水嶺踏査、訪台、訪韓等の写真が賑やかに展示された。

祝賀会は、鈴木(裕)副支部長の開会で始まり、講演会は三浦(真)委員の進行で行われた。

始めに、山川博先生の「高齢者の健康と登山」と題して、老人の特徴として筋肉のやせにより、水分の貯蔵の役割は減退し、脱水を起こしやすい特徴があるので、登山時の脱水量の方程式、等々について講演された。

山川先生は記念撮影の後、学会出席の為退席。

続いて佐々木民秀顧問の「太平洋四方山話」。太平洋にまつわる話として、山名の起源と以後の呼称、山頂に祀られている太平洋三吉の神々(大権現)、薬師如来や三十三観音等の由来、県内各地に分霊されている里山の太平洋(これまでに五十山近くを確認)、大正元年以降の標高の変遷、古くからの参拝道や近年開設された登山道の今昔、等々を話された。

佐々木(長)委員の進行で祝宴が始まり、富山流尺八師範・藤田新山さんの尺八演奏で、めでたい音曲「鶴の巢籠」の演奏後、支部物故会員への黙祷が行

われた。

続いて、今野支部長が挨拶(次頁)。

長岩名譽顧問からは、支部設立以来の初代荒巻支部長始め、歴代の支部長への感謝と、支部の発展に力を尽くし、物故者となった方々への哀悼、そして、会報が五号で途切れていたが、三代目岡田支部長が十六年ぶりに「秋田山岳」と名称を変えて発行、そして佐々木前支部長や事務局の努力で今日まで継続され、九十四号までが会員に届けられ、それが登山の道しるべとなつていく。「山の日」も制定され、山への関心も深まると思う。これからも今野支部長のもと、会員相互の意欲と団結で「日本山岳会秋田支部」を盛り上げて、若い人達の山への憧れを結んでくれる事を希望している、との祝辞をいただいた。

新永年会員二名(大山孝一会員欠席)に記念品の贈呈が行われ、佐々木民秀新永年会員から、五十年前入会した時、荒巻支部長に挨拶に伺った時、「君、事務所を手伝ってくれ」の一言で、それから支部の委員、事務局長、支部長と五十年間支部の運営に携わってきた。これも、その時代時代の会員のご協力のお陰との謝辞があった。

支部設立五十五周年を祝い、こ



公益社団法人 日本山岳会秋田支部 設立55周年記念祝賀会 平成26年11月15日 於 秋田ビューホテル

れまでの役員の方々のご苦勞をねぎらい、支部の益々の発展を祈念するとの、安藤名譽顧問の力強い乾杯の発声で懇親会は始まった。

新入会員の澤田石一夫会員、佐藤英實会員が紹介され、会は、楽しく和やかに、会員同士の親交を深めた。

余興は、堀井副支部長のハーモニカと尺八の合奏で「雪山賛歌」や紙芝居に合わせて「ふるさと」等を合唱。また、「秋田県民歌」にまつわる心温まるエピソードを奥村会員が話されてから全員での大合唱。

最後に、堀井副支部長(祝賀会実行委員長)の三本締めで、祝賀会は午後六時頃、無事に閉会となった。



永年会員
記念品



公益社団法人 日本山岳会秋田支部
設立55周年記念祝賀会

御芳志

出席者 進藤昭 長岩嘉悦 安藤武俊
佐々木民秀 奥村清明 北林嘉鶴子
福田光子 田口善信 打矢道雄
今野昌雄 小笠原義雄 鈴木要三
山川博 柳田勇悦 鈴木裕子
堀井弘 鎌田倫夫 佐藤博
高橋忠雄 鈴木美代子 石川祐子
柴田勲 三浦真六 長岡幸則
佐々木長秀 佐々木悦子 安藤金栄
藤田正義 澤田石一夫 佐藤英實
(三十名)

一万円 長岩嘉悦 佐々木民秀
今野昌雄
五千円 安藤武俊 佐藤昭義
北林嘉鶴子 鈴木裕子
二千元 福田光子 小笠原義雄
柳田勇悦
手作りの記念品と名札 堀井弘

支部設立五十五周年記念祝賀会によせて

支部長 今野昌雄

本日は日本山岳会秋田支部設立五十五周年記念祝賀会に、このように大勢ご出席くださいまして誠にありがとうございます。設立当時の会員で、名譽顧問の進藤昭様、長岩嘉悦様、安藤武俊様のご臨席を賜り、この祝賀会が開催できました事を皆様と共に喜び申し上げます。

支部設立の昭和三十四年と言えば私は高校二年生、第十六回秋田国体の二年前に当たります。

太平山の麓ではトロツコが走り、秋田駒ヶ岳では、田沢高原スキー場や乳頭スキー場、現在の田沢湖スキー場もまだ造られていなく、登山道の水沢コースが七月にできた年でした。

その後、多くの困難を克服して秋田支部を現在まで発展させてこられた諸先輩の方々には、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、支部設立五十五周年記念事業は、県内の山・五十五座に登頂する五十五座ラリー、県内標高五十五番目の秋田駒ヶ岳・横長根山行、県外山行は、長野方面の黒姫山、戸隠山、飯綱山等。

そして、公益的事業では太平山市民登山への協力、前岳への案内標識やベンチの設置、歩道の下刈りなどを今年も実施し、登山者にも大変喜ばれています。

本日の祝賀会場に展示された写真からも、支部の興味深い歴史の一部を知ることができると思われます。

ところで、「日本山岳会秋田支部設立四十周年記念誌」や「五十周年記念誌」は誠に素晴らしい記録です。秋田支部伝統の温かな家庭的ムードで里山を重視してきたことや、中央分水嶺登山で燃えた記録もあります。

諸先輩並びに会員の活動記録をまとめ、会報発行や公益社団法人化への移行作業に尽力された佐々木民秀前支部長、鈴木裕子現副支部長兼事務局長には深く感謝とお礼を申し上げます。

また、佐々木前支部長は長年のキャリアと人脈で、この数年だけでも韓国・智異山系老姑壇(ノゴタン)、月出山(ウオルチュル)、中国東北部の長白山系、台湾南部の北大武山に、私達支部会員を案内し、その国の山岳関係者と交流する機会を作ってくれました。

支部役員を五十年続け、こんなに山を歩き、地図に書き込み、秋田弁で対応する前支部長は、先月の全国支部長の集まりでも、名物支部長として慕われておられるとの評判でした。鈴木要三前副支部長ともども長期間の大役有難うございました。顧問としてこれからもよろしくお願い致します。

秋田支部の会員は、それぞれが特技を持ち合わせております。百名山完登者、一等、二等の三角点とか、県内一〇〇〇m峰・一四三座の完登者、「秋田県山」「秋田の山」「仁者楽山」等の執筆・出版、プロ並みのベンチや案内板製作、自然保護活動や自然観察員

の分野での活動、太平山前岳へ通勤のように毎日登山しながら魁新聞コラム連載、羽後朝日岳捜索での千葉県のご家族や仙北市役所、警察、消防との交渉等々素晴らしい人材の宝庫でもあります。

平成二十八年から八月十一日が山の日制定で、国民の祝日になります。

秋田支部は、この二十八年度に東北・北海道地区集会の当番に当たっております。また、五年後は秋田支部設立六十周年を迎えることになります。

今回は内輪の祝賀会でしたが、六十年では、秋田支部の実情を踏まえながら支部活性化を目指し、全国支部懇談会を開催することも一つの考えだと思います。

会員お一人おひとりのかけがえのない人生をより豊かに楽しくし、支部発展のためにも、今後も一層のご協力をお願いし、祝賀会のご挨拶といたします。

平成二十六年年度支部合同会議開催

平成二十六年九月二十日(二十一日東京四谷プラザエフ会議室で開催)

日本山岳会の組織・体制、次期人事の基本方針、会員の動向、支部事業の交付金制度、百周年記念事業、登山計画書の提出及び事故連絡等。

「新日本山岳誌」の第二版発行等について説明。

(会報「山」No.八三三号参照)

秋田支部出席者

今野支部長
佐々木信之総務委員

全国支部懇談会

集会 鈴木裕子

十月十八日・十九日、埼玉支部主管の全国支部懇談会が、埼玉県秩父市、ナチュラルファームシテイホテルで全国から一九九名の参加で開催された。大久保埼玉支部長の挨拶の後、森会長ら来賓が紹介され、講演会が行われた。

埼玉県警山岳救助隊副隊長の飯田雅彦氏の「埼玉県の山岳遭難事例と安全対策」と題する講演は、DVDで救助の様子が映し出され、救助する側の苦心が良くわかり、登山届提出の大切さ、自分の力量を知り無理をしない事等を力強く語られた。

秩父まるごとジオパーク推進員吉田健一氏は、風土や歴史に基づく秩父盆地について、両神山、武甲山、琴平丘陵の興味深いお話があった。

懇親会は、南米地方のフォルクロレの演奏や秩父屋台囃子が賑やかに演奏されて盛り上がり、各支部から差し入れの地酒が飲み交わされ、会員同士の交流を深めあった。

懇親会は、次年度の全国支部懇談会主管である四国支部長の挨拶で終えた。明日の記念山行は、両神山、武甲山の登山と琴平丘陵散策が行われる。

出席者 佐々木民秀 今野昌雄

鈴木裕子 鎌田倫夫

石川祐子 佐々木長秀

武甲山 佐々木民秀

秩父市に堂々と聳える日本二百名山でもある武甲山（一三〇四m）は、奥秩父の最高峰で、セメントの採掘（石灰岩）の山として有名。山頂には武甲山御岳神社が建ち、古くから信仰登山で賑わってきた山でもある。

十月十九日、一行六十六名、バスに分乗し、登山口である一の鳥居へ。

一の鳥居の建つ駐車場から表参道を登ったが、登山口から山頂まで鬱蒼と茂る杉林の登りのみ。一丁目から山頂の五十二丁目まで石柱があり、現在地が判り良い。途中に周囲五m以上の天然杉が二本あった。



山頂広場で 一班の皆さん

山頂広場には神社やトイレ、避難用のシェルターなどが立ち、少し先に移転された二等三角点と釣鐘、最高地のフエンス先に市街地を一望できる展望台があり、多くの登山者で賑わっていた。また、一段下の眼下には採掘で平坦となった台地が広がっていた。

標高はかつて一三三六mあったが、三二mほど削られたとのこと。

一行、広場での昼食後、西側のコースを長者屋敷の頭を経て急斜面の杉林を下り、橋立林道終点に出る。長い林道を歩き、橋立鍾乳洞のある浦山口駅に下山、駅からお花畑駅経由で、西武秩父駅で解散した。

参加者 佐々木民秀 鈴木裕子

両神山 石川祐子

平成十七年に妙法ヶ岳から両神山のギザギザを確認し、それから九年。とうとうその機会がやってきた。絶対に登りたい思いで、体調万全に整えて秩父へ。

十月十九日、両神山を選択した参加者六十三名は、二台のマイクロバスに分乗し、ホテルを七時に出発した。交差できる箇所が数か所しかない林道を七十分程で駐車場とトイレのある「白井差登山口」に着く。

秋田支部の四名は、森会長と共に一班で行動し、登山口を八時三十分に出発。五分程で林道終点のコンクリート橋を渡り、登山道に入る。

緩やかに登っていくと、落差十八m

の昇竜の滝が右手に現れ、すぐ上には社がある。

沢に沿って進むルートは、大地が移動してできたといわれる、様々な方向に走る縞模様様が珍しい岩や、向かいの大岩に思わず声をかけたくなるやまびこ橋、ノゾキ橋を通過し、水晶坂のジグザグ道に入った。

落ち葉に覆われた三十分程の急坂は歩きやすく、踏み固められている。焦らずゆっくりと登るが、一気に高度を稼いでいる感はある。九時四十五分、ブナ平に到着。

この時期、爽やかな風が冷たさに変わるのは速い。早々に腰を上げ、再び急坂を登って夢見平を過ぎると、ヤマブドウの葉やツルに覆われた木々の間から、両神山の岩肌と紅葉が美しいコントラストを見せ始めていて、山頂に続く稜線までは厳しい登りであるが、



両神山山頂 一班の皆さん 右端が森会長

2014



平成26年12月 発行

No. 95

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行者 今野 昌雄

編集者 鈴木 裕子

支部設立55周年記念

支部設立五十五周年記念祝賀会開催

副支部長 鈴木 裕子

秋田支部は昭和三十四年六月に設立、本年で五十五周年を迎え、その記念祝賀会が十一月十五日、秋田ビューホテルで午後一時から開催。会場には、支部の歴史となる設立当時の会山行、周年記念事業、分水嶺踏査、訪台、訪韓等の写真が賑やかに展示された。

祝賀会は、鈴木(裕)副支部長の開会で始まり、講演会は三浦(真)委員の進行で行われた。

始めに、山川博先生の「高齢者の健康と登山」と題して、老人の特徴として筋肉のやせにより、水分の貯蔵の役割は減退し、脱水を起こしやすい特徴があるので、登山時の脱水量の方程式、等々について講演された。

山川先生は記念撮影の後、学会出席の為退席。

続いて佐々木民秀顧問の「太平山四方山話」。太平山にまつわる話として、山名の起源と以後の呼称、山頂に祀られている太平山地三吉の神々(大権現)、薬師如来や三十三観音等の由来、県内各地に分霊されている里山の太平山(これまでに五十山近くを確認、大正元年以降の標高の変遷、古くからの参拝道や近年開設された登山道の今昔、等々を話された。

佐々木(長)委員の進行で祝宴が始まり、富山流尺八師範・藤田新山さんの尺八演奏で、めでたい音曲「鶴の巢籠」の演奏後、支部物故会員への黙祷が行

われた。

続いて、今野支部長が挨拶(次頁)。長岩名譽顧問からは、支部設立以来の初代荒巻支部長始め、歴代の支部長への感謝と、支部の発展に力を尽くし、物故者となった方々への哀悼、そして、会報が五号で途切れていたが、三代目岡田支部長が十六年ぶりに「秋田山岳」と名称を変えて発行、そして佐々木前支部長や事務局の努力で今日まで継続され、九十四号までが会員に届けられ、それが登山の道しるべとなっている。「山の日」も制定され、山への関心も深まると思う。これからも今野支部長のもと、会員相互の意欲と団結で「日本山岳会秋田支部」を盛り上げて、若い人達の山への憧れを結んでくれる事を希望している、との祝辞をいただいた。

新永年会員二名(大山孝一会員欠席)に記念品の贈呈が行われ、佐々木民秀新永年会員から、五十年前入会した時、荒巻支部長に挨拶に伺った時、「君、事務所を手伝ってくれ」の一言で、それから支部の委員、事務局長、支部長と五十年間支部の運営に携わってきた。これも、その時代時代の会員の協力のお陰との謝辞があった。

支部設立五十五周年を祝い、こ



公益社団法人 日本山岳会秋田支部 設立55周年記念祝賀会 平成26年11月15日 於 秋田ビューホテル

れまでの役員の方々のご苦労をねぎらい、支部の益々の発展を祈念するとの、安藤名譽顧問の力強い乾杯の発声で懇親会は始まった。

新入会員の澤田石一夫会員、佐藤英實会員が紹介され、会は、楽しく和やかに、会員同士の親交を深めた。

余興は、堀井副支部長のハーモニカと尺八の合奏で「雪山賛歌」や紙芝居に合わせて「ふるさと」等を合唱。また、「秋田県民歌」にまつわる心温まるエピソードを奥村会員が話されてから全員での大合唱。

最後に、堀井副支部長(祝賀会実行委員長)の三本締めで、祝賀会は午後六時頃、無事に閉会となった。